

経営統合についての記載有り

今日の話



小さく折りたたんだ
プラスチック板を搭載
した室蘭工業大などの
超小型人工衛星「ひろ

がり」。今月4日、宇宙空間で展
開実験が行われ、見事に広がった。
板は太陽光パネルを想定したも
の。宇宙太陽光発電の実現に向け
た第一歩で、教員と学生は成功の
喜びを分かち合った。

室工大は現在、

航空宇宙分野に力
を入れており、十

勝管内大樹町に拠点を開設し、ロ
ケット開発ベンチャー企業への支
援も始めた。脱炭素社会をにらみ、
液化水素の輸入・貯蔵基地の整備
を目指す室蘭市の産学官組織にも
参加。「水素研究に関するこれま
での蓄積を課題解決に役立てた
い」と強調する。

研究成果の還元は、大学淘汰の
時代を生き抜くために欠かせない。

い。単科大の室工大はこれに加え、
専門性により磨きをかけている。
努力は目に見える形にも表れて

いる。朝日新聞出版の「大学ラン
キング2021」で、論文がどれ
だけ引用されているかを示す論文
引用度指数において、コンピュー
ター科学分野の1位(3年連続)、
工学分野の2位を獲得した。

こんな動きに対し、道内の他の

単科大も手をこま

ねいているわけ
はない。小樽商科

大、帯広畜産大、北見工大は来年
4月に経営統合する。商・農・工の
各専門分野を融合させた研究で独
自の存在感を示していく考えた。

室工大と3大学は異なる選択を
した。ただ、地域に貢献しながら、
次世代を担う人材を育てるという
理念は同じはずだ。期待を込めて、
それぞれの歩む道を見つめていき
たい。

(沢田 信孝)